

母子保健と学校保健の連携による地域保健活動

小野寺伸夫（国立公衆衛生院衛生行政学部）

橋本勢津（岩手県宮古保健所）

野崎富子（岩手県環境保健部）

緒言

本研究は、地域保健活動の実践を通じ、母子保健活動と学校保健活動の連携に基づく思春期保健の基本課題にせまる諸点について検討を行った。このため、乳児期から思春期に至る環境条件が心理面に及ぼす影響、乳児期栄養、免疫の保健調査や、思春期群に対する保健教育の実施のありかた、保健行政と教育行政の連携の調査を実施した。

昭和55年度から57年度間のM児童相談所指導をうけた反社会行動の99例について、過去にさかのぼり保健指導上の調査を行った。結果、単親家庭が多く、乳児期より養育状況の適切といえないものが多くみられた。この調査は地域や時点が限定された内容であり、今後さらに因子分析などの実施が必要である。

保健教育の実践では、県教育委員会を通じ県内14高校に実施した。内容は胎児からの出発、母乳など、媒体はVTR使用し、講義及びアンケート調査を行った。結果は図1のとおりである。卒業前にみてよかったとするものが91%、婚前でよいが8%あるが、婚前学級の受講率の低い現在、高校生に保健教育が実施されることは意義が大きい。

保健所、市町村、母子衛生協議会、児童相談所、医療機関及び学級との連携により地域保健システム化を図った。

母子保健と学校保健活動の思春期指導にあたっては、青少年健全育成と青少年非行防止を目的として行政の施策が重要と考えている。

このため岩手県教育委員会は県内中高生を対象に青少年健全育成講演会を58年度から3年間実施しており83校、32,110人受講している。

その際、全生徒について講演会の主旨、内容を調査した。本内容は表1のとおり講演の内容については、「大変よかった」「よかった」が95%強を占めている。

また近年、覚せい剤やシンナー等の薬物乱用者の検挙、補導件数が増加の傾向にあることから、岩手県環境保健部においては、青少年を対象とした覚せい剤シンナー等薬物乱用防止の啓発講座を59、60年度と2カ年実施した。78校、35,539人の生徒が聴講している。その際、無作意抽出によるアンケート調査をした結果、表2のとおり、98%以上まじめな意見が寄せられている。うち95%が「ためになった」「恐ろしさがわかった」と答えている。

なお、県警の調べによると、59、60年度における県内少年のシンナー等乱用者は、429件、428件である。これら講座の開催による効果とは一概に判断できないが青少年に薬物乱用の有害性について、正しい認識を与えることは薬物乱用の恐ろしさから青少年を守る有効な手段であると思われる。

考察

これらの調査を通じ、養育のありかたやそのおかれた環境について、より人間的な働きかけを保健活動として位置づけることは、健康な思春期社会を形成する基本条件である。そのため生命尊重、母乳栄養のすすめ、家庭の和、父母の役割等保健科学として積極的なアプローチが期待されている。しかし、本研究は地域や時点が限定された内容であり、今後における総合的な考察がさらにもとめられてよいだろう。

また、より効果的な活動を展開するために、思春期保健の教育指導計画、必要とする教育媒体の充実と課題をとらえたソフトの開発が重要

である。

さらに地域活動を充実するための指導者養成としての教育訓練の実施が検討されると共に保健行政の連携のもとに実施された保健教育活動は、高校生がとりわけ真面目な対応がみられるところから、ライフサイクル全体を通じた総合的施策が必要であり、関係機関との連携が重要である。

表1 青少年健全育成講演会アンケート
(番号を○でかこんで下さい)

1. 大変良かった 2. 良かった 3. どちらともいえなかった 4. あまり良くなかった

- 開催の時期について
1 16.6% 2 34.1% 3 34.1% 4 15.2%
- 会場について
1 28.6 2 45.6 3 21.2 4 4.6
- 講師について
1 68.2 2 25.8 3 4.6 4 1.4
- 講演の内容について
1 62.2 2 32.7 3 4.6 4 0.5
- 今後講演を聴いてみたいと思う講師の名前
- 今日の講演を聴いての感想を書いて下さい。

表2 青少年薬物乱用防止講座アンケート調査結果

項目		年度	
		59	60
対象人数		566人	1,479人
(1) 今回の講話はためになりましたか	イ 非常にためになった	322 (56.9%)	867 (58.6%)
	ロ まあためになった	222 (39.2%)	554 (37.5%)
	ハ 全くためにならなかった	22 (3.9%)	58 (3.9%)
(2) 映画はためになりましたか	イ 非常にためになった	348 (61.5%)	947 (64.0%)
	ロ まあためになった	194 (34.3%)	477 (32.3%)
	ハ 全くためにならなかった	24 (4.2%)	55 (3.7%)
(3) シンナー・覚せい剤の恐ろしさがわかりましたか	イ よくわかった	454 (80.2%)	1,128 (76.3%)
	ロ だいたいわかった	102 (18.0%)	321 (21.7%)
	ハ わからない	10 (1.8%)	30 (2.0%)
(4) シンナー・覚せい剤に手を出してはいけないと思いますか	イ 思う	559 (98.8%)	1,442 (97.5%)
	ロ 思わない	7 (1.2%)	37 (2.5%)

図1 母乳栄養意識調査

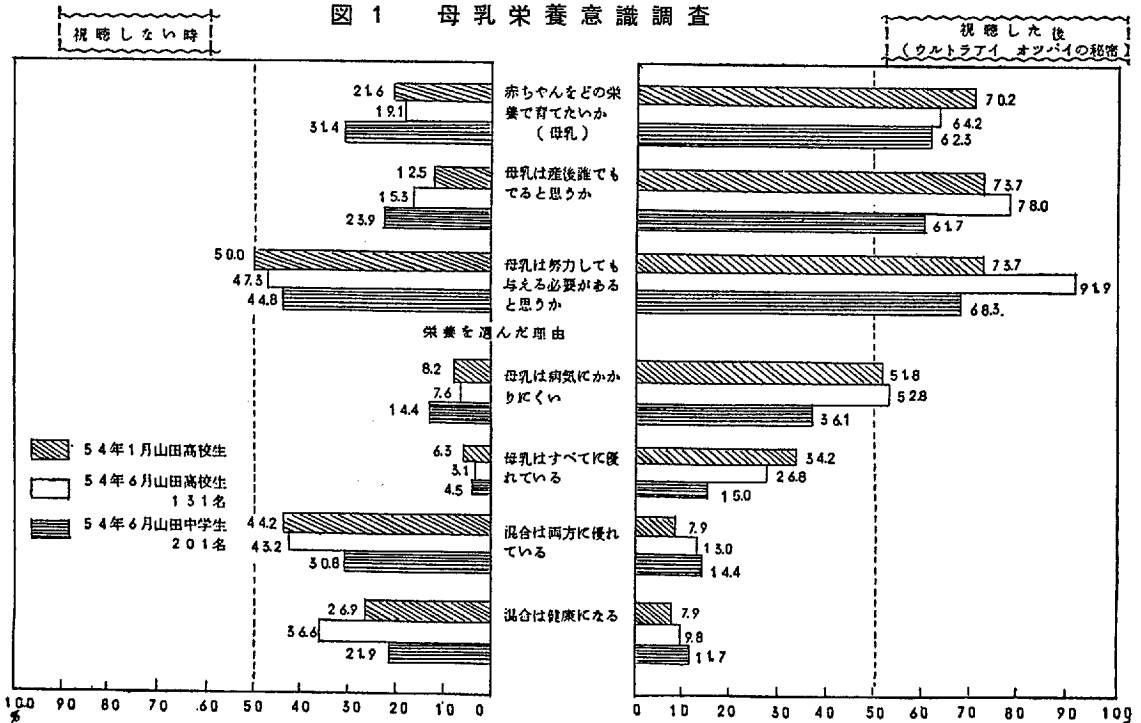
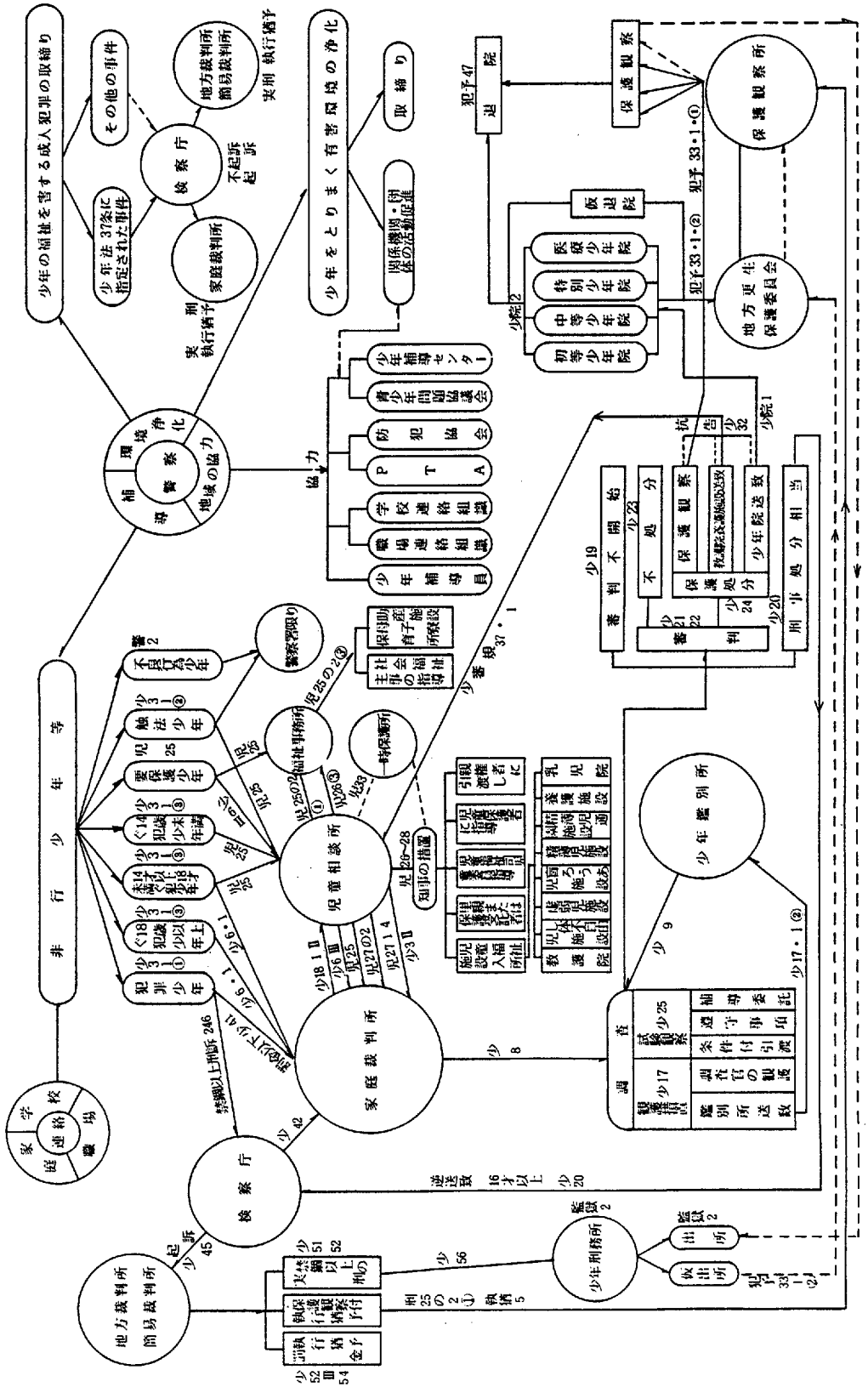
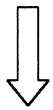


図2 少年非行防止活動系統図





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



緒言

本研究は、地域保健活動の実践を通じ、母子保健活動と学校保健活動の連携に基づく思春期保健の基本課題にせまる諸点について検討を行った。このため、乳児期から思春期に至る環境条件が心理面に及ぼす影響、乳児期栄養、免疫の保健調査や、思春期群に対する保健教育の実施のありかた、保健行政と教育行政の連携の調査を実施した。